

# 大学での学び方と態度

## § 1. 自分で計画し、自分で進んで学ぶ

大学では、高校までで学んだ基礎を前提として、専門教育を行います。高校までは、全員が教育内容を身に付けられるように、懇切丁寧な指導が行われますが、大学では学生が自ら学ぶことが求められます。質問がない場合は理解したとみなされ、授業はそのまま進んでいきます。

わからないことがあった場合は、必ず質問しましょう。

## § 2. 答えは1つとは限らない

専門教育では、課題に対する答えが1つとは限りません。答えが1つの場合は暗記をすればよいのですが、そうではない場合、結果に対する理由を説明する必要があります。授業で課されるレポートを書く場合、学んだ知識だけでなく、皆さんの考える力も問われているのです。

なぜかを考え、理由を説明できるようになりましょう。

## § 3. 自分の意見を言えるようにしよう

大学の授業では、自分の意見や考えを求められることがあります。自分から積極的に発言することが大切です。10人いれば10通りの意見があるはずです。他人とは違った「自分なりの意見・自分なりの考え」を常に表現できるようにしましょう。

「私はこう考える」ということを積極的に発言してみましょう。

## § 4. 学習範囲が決まっていない

高校までは、学習範囲が定められていましたが、大学では学習目標は決まっていますが、学習範囲は決まっていません。前回の授業で学んだことを元に、何を学ぶべきか、自分の基礎知識で足りない部分を補うべきことは何かを考えて予習しましょう。

予習・復習を通じて、わからない点はどんどん調べましょう。

## § 5. 必ずノートを取る

講義は、必ずしも教科書に沿って進められるわけではなく、主として、板書やスライドを用いて説明が行われます。演習・実習、実験は、体験的に学習が進められるので、重要だということや疑問に思ったことはどんどんノートに書いていく習慣をつけましょう。また、配布資料も整理しておきましょう。

必ずノートを取り、配布資料も授業の流れに沿って整理しましょう。

## § 6. 自主的に勉強する

シラバスには、予習・復習の内容が記載されていますので、教員の指示がなくても、必ず自主的に勉強しましょう。科目によって、予習と復習の割合も異なります。特にスキルを学ぶ科目は、復習を重視しましょう。また、授業時に課題を指定された場合は、期日に間に合うように提出しましょう。

予習・復習の時間配分をし、学んだことの理解を深めていきましょう。

## § 7. 試験の形式は科目によって異なる

高校までは学期末に筆記試験が必ず行われていましたが、大学では様々な評価方法があります。学期末に記述や論述の筆記試験を行う科目だけでなく、自分の考えを述べるレポート提出を課されることもあります。毎回の小テストを評価する科目もあります。また、実技や実習では、取り組み方が評価対象にされることもあります。第1回目の授業で試験の形式が説明されますので、確認しましょう。

配布資料は試験やレポートに必要なので、必ず保存しておきましょう。

## § 8. 評価は科目によって異なる

試験（レポート）の成績は単位認定に直結しています。評価は、秀（90点以上）・優（80点～89点）・良（70点～79点）・可（60点～69点）・不可（59点以下）です。不可の場合、単位は認定されません。また、出席しただけでは単位は認定されません。成績は、他の履修者との比較ではなく、履修した本人が、学習した内容をどの程度理解しているかで評価されます。

履修登録時に、履修すべき科目かどうかを判断しましょう。